

《担当者名》○吉田晋 佐々木祐二 中村宅雄 山根裕司

【概要】

本科目では、関節可動域制限や筋力低下、持久力低下といった基本的な運動障害の原因について理解するとともに、各種運動療法を実施するうえで必要となる基礎理論について学習する。

【学修目標】

一般目標

基本的な運動障害の原因を理解し、目的に応じた運動療法を選択、実施できるようになるために、解剖、生理学および運動療法学領域の基礎知識を身につける。

行動目標

1. 各種運動障害の原因について、解剖、生理学領域の知識を用いて説明できる。
2. 運動療法の基礎理論について説明できる。
3. 各種障害に応じた運動療法について適応を判断し適切な方法を選択できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	運動療法とは	運動療法の定義と目的、運動の種類について学ぶ。	吉田晋
2	関節の構造と機能	骨、関節の構造と機能について学ぶ。	佐々木祐二
3	関節の機能障害	関節拘縮のメカニズムについて学ぶ。	佐々木祐二
4	関節可動域制限に対する運動療法	関節可動域を改善するための、他動運動や関節ストレッチング、モビライゼーションなどの運動療法について学ぶ。	佐々木祐二
5	痛みと痛みに対する運動療法	痛みの原因と痛みに対する運動療法について学ぶ。	佐々木祐二
6	筋の構造と機能	筋の構造や収縮メカニズムについて学ぶ。	山根裕司
7	筋の機能障害	筋力低下のメカニズムについて学ぶ。	山根裕司
8	筋力低下に対する運動療法	さまざまな筋力訓練方法について学ぶ。	山根裕司
9	呼吸循環器の構造と機能	呼吸器、循環器の構造やエネルギー代謝といった機能について学ぶ。	中村宅雄
10	呼吸循環機能の障害	呼吸循環器障害による運動障害について学ぶ。	中村宅雄
11	呼吸循環障害に対する運動療法	運動耐容能を向上させるための運動療法について学ぶ。	中村宅雄
12	中枢神経の構造と機能	脳や脊髄など運動に関わる中枢神経系の構造と機能について学ぶ。	吉田晋
13	中枢神経障害による運動障害	中枢神経の障害による運動障害について学ぶ。	吉田晋
14	運動制御と運動学習	中枢神経系による運動の制御機構と学習メカニズムについて学ぶ。	吉田晋
15	中枢神経障害に対する運動療法	中枢神経障害に対する運動療法について学ぶ。	吉田晋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

定期試験および追再試験実施後、個別での問合わせに対しフィードバックを行う。

【教科書】

吉尾雅春 / 横田一彦 編 「運動療法学 総論」第4版 医学書院 2017年

【参考書】

市橋則明 編 「運動療法学 障害別アプローチの理論と実際」 文光堂 2014年  
千住秀明 監 「機能障害科学入門」 神陵文庫 2010年

**【備考】**

指定の教科書に加え、必要に応じて学習プリントを配布する。

**【学修の準備】**

教科書および配布資料等を基に予習・復習（講義1回あたり予習復習合わせて1時間程度）を行うこと。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

吉田晋（理学療法士） 佐々木祐二（理学療法士） 中村宅雄（理学療法士） 山根裕司（理学療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関および研究機関での実務経験を活かし、理学療法治療学の基礎となる運動療法学の基本的知識を講義する。